

校長室だより

共学共高

第
13
号

令和3年9月24日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

授業公開週間 part2

前号に引き続き、授業公開週間中に参観した授業の様子などを紹介したい。今回は一部の英語科の先生たちの実践をまとめてみた。

【H先生のコミュニケーション英語Ⅱ（2年7組）】

オリンピック競技にもなっているカーリングに関する文章の読解である。内容把握が終わり、Exercise（練習問題）を扱っている。H先生が「本文の最も中心になっているアイデアは次のa～dの中ではどれか？」と問い、選択肢の英文を電子ボードに映し出す。クラス全員に挙手を促すが、全員がdを選んだ。次に、「Sharing your opinion」の時間となり、ペア又は3人でなぜdを選んだのか考えを分かち合う。結果は、全員正解であった。次の問いは、「What sport would you like to try?」である。再び、生徒たちは2～3人で話し合う。少しして、H先生が最初の生徒を指名すると、「I want to try Rock-climbing.」と返答があった。H先生「Why?」生徒「It's easy for me.」その他にも、「Tennis、La Crosse、Diving」などの返答とその理由について次々とやりとりが続く。その他にも、本文の構造について問うている質問の解答をペアで話し合う、要旨をリスニングさせて空欄を補充する、といった作業をペア又は3人で取り組む。かなり生徒間の活動がある授業である。最後に、「Critical Reading Training」の時間である。H先生は、「根拠は何か、明らかにして読み進めなさい」と指示を出す。生徒たちは、JackとSusanの会話文を聞き取り、その後、問題文に対する答えを生徒間で確認し合う。その後、H先生が4名の生徒を指名して、根拠を言わせて解答の確認をした。時間の流れが速い授業であった。



ペアで話し合う生徒たち

【T先生のコミュニケーション英語Ⅱ（2年5組）】

オンライン授業が終わった直後の対面授業である。T先生は、online lessons と face-to-face lessons のそれぞれの良さを記述するように指示を出す。生徒たちは、iPad 上で記述をしていく。その後、生徒たちはペアとなって、お互いの意見を交換する。たまたま隣の生徒が欠席で一人になってしまう U さんがいたので、私がパートナーとなってやりとりをした。こういう不測の事態に動揺することなく、普通にこなしてくれる U さんの態度が素晴らしい。「えーなんで、校長なの？」なんてことは口にしないのが白梅生だ。

その後、T先生が4名の生徒を指名して、発表させる。生徒たちは、「I prefer ○○lessons, because・・・」と回答していた。online だと通学時間がないこと、face-to-face では友達と直接一緒に学ぶことの意義について述べる生徒が多かった。



T先生からの説明を受けて記述する生徒たち

【I₁先生の英語表現Ⅰ（1年2組）】

冒頭に I₁先生が、「動詞の後に～ing（動名詞）が来る場合と、to 不定詞が来る場合とで

は、どのような意味上の違いがあるのか」と問いかける。例えば、remember sending と remember to send との違いである。この違いを各自で考えさせたのち、I₁先生がペア又は3人を指定して話し合いをさせる。その後、2名の生徒を指名して、表現させた。その結果、前者はすでに終わった動作（送ったことを覚えている）、後者はこれから行う動作（送ることを覚えている）であることが共有された。

次に、I'll never forget visiting Rome. と Don't forget to turn off the computer. の違いを考えさせ、同様に生徒同士で考えを出し合う。その後、I先生が2名の生徒を指名して全体に共有される。生徒たちは前者が「ローマを訪れたことを忘れない」、後者が「コンピュータの電源を切ることを忘れない」とであると、的確に回答した。

さらに、He stopped smoking. と He stopped to smoke. の違いを各自で考えさせたのち、ペアで意見交換して、発表させる。こちらも生徒たちは違いをしっかりと押さえていた。お互いにあたりまえに意見交換する生徒たちの姿が、印象的であった。



電子ボードを使って解説する I₁先生

【S先生のコミュニケーション英語I（1年6組）】

冒頭にS先生は、iPadを使った確認テストを行うことを英語で説明する。生徒たちは、各自で端末に向かい解答する。その後、端末内の自分の名前の下にいる人の採点を担う。その際、正答は正面の電子ボード上に映し出されている。こうした冒頭の確認テスト（一般的には既習事項や宿題の点検といったテストが多い）は、生徒たちの集中力を高めるとともに、基礎事項の定着に有効であろう。友達に採点されるというのも、生徒間の開かれた関係があればこそ可能となる。

教科書の関係詞に関する Exercise（練習問題）を扱う。S先生が次から次へと生徒を指名して解答させ、それを全員で共有する。生徒たちの解答は、Perfectであった。次に、英語を英語で理解する、フレーズリーディングへと進む。S先生がペアを指定して、生徒たちはお互いに相手にわかりやすいように読み、聞かせる。途中で発音の不明確な新出単語ができてきても（例えば、sorrow、courageなど）流れの中で発音してみることが大切なのだと感じた。

ここでも、生徒たちの活動が活発で頼もしい限りである。

【I₂先生の英語表現 I（1年7組）】

冒頭に、I₂先生がスライドを用いて、不定詞の意味上の主語などについて、復習事項を説明する。It is 形容詞+目的語+to 不定詞の構文において、性格を表す形容詞のときには目的語の前の前置詞は of となり、それ以外の形容詞の時は、for を使うこと。知覚動詞のときには to 不定詞ではなく、原形になることなどを確認していく。

その後、課されていた宿題について、生徒を指名しながら英文を完成していく。途中で、I₂先生は生徒が誤りやすい発音や別の表現も紹介している。完璧に予習をしてきている生徒にとっても、授業の中で新たな気づきを得られることになるので、これはいい取組である。語句整序問題では、「なぜこの並びになるのか」ペアを指名して確認させる。その後、指名して電子ボードの前で全体に説明させる。ペアで指名されるので、不安な場合は 2 人で前に出てくればよい。そういうペアもいたが、生徒たちは的確に説明していた。ペアでの話し合いの際に、自然にペアが合体して 4 人で話し合うところも出てきて、なかなか面白い。生徒たちが活発に意見交換をするのは、全員が予習をしてきているからだろう。教室の前方で生徒の説明が終わると、自然にまわりの生徒たちが拍手をするのもいい場面だ。



クラス全員の前で解説する生徒



ペアワークする生徒たち

授業を担うには、大きなエネルギーが必要である。日頃授業をしていない私が、夏休みの中学生体験授業を担当したときには、予想外に疲れが押し寄せてきた。わずか一コマの授業を行うのにも、決して容易なことではない。先生たちの姿を見て、授業に参加する生徒たちから力を得ているのではないか、と勝手に感じている。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）